
清水 義彦 (しみず よしひこ)



【書名】日本語のリズム 四拍子文化論

【著者】別宮貞徳

【発行】筑摩書房 (ちくま学芸文庫)

日本語は、自分がしゃべっている言葉だけに、自分ではなかなか特徴がわからないものです。著者は上智大学で英語翻訳論などを教えていた人ですが、あれこれ探求の末に、日本語は四拍子でできていることを発見します。例えば、「古池や…」のような俳句は、よく五・七・五といますが、その背後にあるのは、じつはトントン・トントンの四拍子だということです。俳句のような定型詩だけでなく、ふつうの散文も四拍子が基本になっているとも。「お客さまの・お呼び出しを・申し上げ・ますー」も、じつは本能的に四拍子のまとまりを作って読んでいるのだ、と。この話、逆読みすると、日本語を読むときは四拍子で読めば日本語らしくなる、ということでもあります。四拍子は、古代以来、日本人が長い時間をかけて鍛えあげた、日本語の背骨らしいのです。では、なぜ三拍子でも五拍子でもなく、四拍子なのか？その理由まで、著者は考察していきます。言語論入門としておすすめの、小さくてわかりやすい本です。

【書名】10人の法則——感謝と恩返しと少しの勇氣

【著者】西田文郎

【発行】現代書林

「みなさんは“10人の法則”って知ってますか？」

ある教室に外部の講師として招かれた、ある市の若手議員の方が (30代)、学生に問いかけました。そして、彼は話をつづけました。

- ・金持ちになりたければ、10人の金持ちと付き合い
- ・頭のいい人間になりたければ、10人の頭のいい人間と付き合い
- ・東大に行きたければ、東大生10人と友達になれ
- ・美人になりたければ、10人の美人と付き合い
- ・やる気がある人間になりたければ、10人のやる気がある人間と付き合い、と。みるみるうちに学生はその気になっていきました。
- ・なりたい人といると意識が変わる。

・なりたい人といると限界が壊れる。

なりたい自分、すなわちロールモデルが近くにいれば、「自分もこうやればこの人のようになれる」と思える。

お手本が身近にあること、大切だと私は思っています。皆さんはどうですか？

【書名】 芸術起業論

【著者】 村上隆

【発行】 幻冬社

英語には、“Think out of the box.”という言い方があります。「箱の外に出て考えろ」ということですが、われわれは誰もが自分の「箱」の中において、既存の発想にとらわれているものです。著者の村上隆さんは、日本で伝統的な日本画を学んだあと、「箱の外」に飛び出して、海外で日本のアニメやフィギュアを活用した作品を発表し、日本人としてはじめて、芸術活動を「企業」として成功させました。既存の「日本画」の枠にとらわれない発想で、新しい芸術スタイルを切り開いたのです。あの有名ブランド、ルイ・ヴィトンとコラボして、村上さんがデザインしたバッグも話題になりました。さて、彼はなぜ、どのように発想を転換し、どう行動したのでしょうか？ そのヒントは、「歴史から学ぶ」ということにありました。どうですか？あなたもひとつ、彼が見つけた成功の秘密を読んでみませんか？

【書名】 進化しすぎた脳

【著者】 池谷裕二

【発行】 講談社（ブルーバックス）

44歳の若さにして東京大学薬学部教授に就任した日本屈指の神経科学者がアメリカの高校生に講義するという形で書かれた「脳」の話。中高校生向けといいながら大人も大いに知的刺激を受ける内容です。「人間は脳の力を使いこなせていない」「人間は脳の解釈から逃れられない」など解剖学の話から哲学的な話まで。濃い内容をネイチャー・サイエンスの論文まで取り上げて、一般教養レベルで語れる著者の才能のすごさ！ ブラックボックスと思われがちな脳が、すでにこんなにも解明されていることに驚かされると同時に、脳の仕組みを知ることで自分自身の理解にもつながるのでは？

【書名】稼ぐ力——自分の仕事に「名札」と「値札」をつけられるか？

【著者】大前研一

【発行】小学館（小学館文庫）

非正規社員の若者がどんどん増えている今の日本の労働状況、この危機感を若者の心に届けたい！でもどうやって？、という意識を強く持っていた時、書店でこの本に出会いました。自分もこの先どうなるかわかりません。非正規問題は他人事では決してありません。大学生の皆さん、社会に出て働いてみないと、今の厳しさはわかりません。

・就職試験に落ち続けて仕方なく・・・

・ここまで就職なんて何も考えていなかったのも、とりあえず・・・

ということになってはいけません。本を読みましょう。アンテナを高く、そしていろんなところに出かけて行って、時には知らない世界に飛び込むことは必要です。長期休暇に、働く大人を見る目的で、アルバイトをすることは大事です。インターンシップの前に動くのです。仕事ができる大人、カッコいい大人に出会って、ロールモデルを持つことで、人生は変わります。そんな思いにしてくれる一冊です。